

第3回文化施策に関する市民懇話会 議事録

○日 時 令和6年11月26日（火）18:30～20:30

○会 場 高岡市役所 803 会議室

○出席者 【委員】荒井委員、有田委員、安藤委員、筏井委員、伊豆委員、中川委員、浜野委員、藤田委員、山本委員（五十音順）

1 開会

2 協議テーマ

芸術・文化活動に関する市民意識調査結果から、市に求められる施策について

(1) 文化施策に関する市民懇話会の開催経過（事務局から説明）

(2) 芸術・文化活動に関する市民意識調査の概要（事務局から説明）

委員

世代間でずいぶん考え方が違うと感じた。

一番最後の文化施設については、大きな館から小さな公民館まで様々な施設が考えられるので、どう捉えたらいいのか。用途によって必要な施設は変わってくる。

鑑賞する機会を増やすには、魅力的な公演を増やすのも重要。料金は安いに越したことはないが、貴重な体験にはコストがかかるもの。安ければいいということでもないと思う。

委員

30%を超える回答率というのは高いと感じる。中でも若者がしっかり答えてくれている。若い人は静と動であれば動きがある、体験するものに興味があり、高齢の方は静かな文化に興味があるのかなと思う。また、芸術と文化といった表現だとどうしても堅いイメージを持ってしまうが、アートやカルチャーといった表現だと若い人が興味を持つかもしれない。

委員

加賀藩からの脈々と続く文化や富山大学芸術文化学部があるといったことが高い意識に繋がっているのだと思う。

働き盛りの世代である50代における芸術・文化との関わりの満足度が低い結果になった。仕事に対して時間がとられており、芸術・文化に触れる機会が少ないのかもしれない。もっと若い世代や、時間に余裕の出てくる60代以上に狙いを定めた施策が必要なのでは。

委員

富山県の中でも、高岡市はやはり意識が高いと言える結果だ。また、子育てが終わった年代の方の回答数が多い中、そういう世代を含めても子どもに対する文化が大事という回答が多いところでも、意識の高さを感じる。

情報・場所に対するアクセスの良さを求めているのかなと感じた。

委員

文化が子どもたちにとって大切だと思っている方が多いという結果が読み取れてうれしい。文化に関わるなかで自分が楽しいと感じることはもちろんだが、子どもにとって情操が豊かになる瞬間が確かにあるので、それを理解してもらえているのがうれしい。

まちへの効果の設問に対して、人々の交流が活性化する、観光客が増加するという回答が多いことが印象に残った。若い人たちが休日にどこに行こうか…という声を多く聞く。まちなかマルシェなどをよく見かけるので、その中で文化を体験する機会があれば良いと思う。高岡市の観光の中で文化を体験するという機会があると良い。

委員

芸術・文化の振興がもたらす暮らしへの効果をどう感じるかという設問において、芸術文化団体等と一般の方での回答に乖離がある。実際に活動している人のほとんどが「楽しみや生きがいを得られる」「人との交流が活性化する」と回答しており、芸術・文化活動がもたらす効果を実感していると言える。この結果から、芸術・文化活動をしたほうがよいと言えると思う。

委員

高岡市民の若い方も含め、多くの方が芸術文化活動を大切だと答えているのが印象的。自分は富山出身ではなく、地元では文化を体験する機会が少なかったが、高岡はそれが多い。子どもたちが文化を体験する機会が多いことが、この良い結果につながっているのではないかな。

著名なアーティストの公演を開催することで芸術・文化を鑑賞する機会が増えると回答した人は20代以下が多い。いまは推し活というのが広がっており、そういった関係でこの結果になっているのかなと思う。

委員

教育の観点から考えると、芸術・文化は必要であるという考え方が前提になる。産業や経済の発展のためにも人間性を失ってはならず、アートの考え方が欠かせない。その中で、20代以下の人を含めて、高岡では文化に対する意識が高いというのはどういう風に捉えたら

よいのか。ここからは推察だが、芸術・文化をイメージするときに、若い人は芸術・文化を広い範囲で捉えているのだと思う。また、家族が昔からやっているから自分も芸術・文化をやるという高岡ならではの背景があるかもしれない。

委員

呉西地区では昔から、家族がやっているから自分も芸術文化をやるという割合が高い傾向にあった。祖父母や親がやっている子どもたちも関心を持つ。今回のアンケート結果でもそういった傾向が見られる。

広報活動に関して、過去に芸文協の会長が SNS で作品を発信していけばいいと言っていた。詳しくないのでその時は関心がなかったが、今日のアンケート結果や、みなさんの話を聞いていると、後につなげるためにはこのままではいけないと反省している。

委員

高岡は文化に対する意識が高いなと思った。意識が高いが、満足をしていない人も多く、不思議だ。はじめたきっかけが知人、家族という身近な人からというのが多いので、そこから輪を広められるのではないかな。

委員

50 代の満足度が低いのは、仕事の関係で忙しく、時間がないことからだと思われる。芸術・文化活動が必要だとは思いますが、時間がないから満足していないのではないかな。

子どもに対しての関心は 30 代が高い。子どもの豊かな心の成長につなげたい考えからだと思われる。ライフサイクルの中で必要な時にその必要性を感じているのが如実に出てくる。

委員

最近では学校に通わず、デジタルで学ぶことも市民権を得てきている。今後、こういう動きが広がり、社会が変わっていくと思う。今楽しむ人が少なくても、若い人がおもしろいと思っている文化に注目し、将来のために育てる方向もあるのではないかな。一方で、現在は楽しむ人が多くても、若い世代が入らなければ、つなげていけない。

委員

子どもに文化を体験する機会があれば良いと思っている人が多い。芸団協で学校を訪問し、子どもに体験してもらう事業をやっているが、各校の校長先生の想いに委ねられている。親が進んで体験させる家庭もあれば、そうでない家庭もある。家庭ごとに違いがあるので公平ではない。学年全員学校全員への機会の提供など、より多くの子どもたちに体験してもらいたい。

委員

小学校で民謡や合唱、邦楽の体験や鑑賞をしていただく「お出かけ講座」というのをやっている。教えに行っていていただく先生はご高齢の方が多く、交通費のみお支払いするボランティアのような形でやっていただいている。小学校5、6年生を対象に能の体験・鑑賞をしていただく取り組みもはじめて3年目を迎え、これが定着してくれればいいなと思う。

アンケート結果を見ると50代以上の方々が親しみやすい公演や展覧会が増えてほしいと回答している。親しみやすい公演というのは人によって異なるが、有名アーティストばかりを続けることは難しい。

委員

小学校に行って詩吟を体験してもらおうというのをやっているが、詩吟はあまり興味を持ってもらえない。中高生など多感な時期に興味を持ってもらえる文化・アーティストの鑑賞・体験の機会が必要と考える。昔ビートルズが来日したとき、それを観に東京まで行った。若いころに出会ったものは将来にわたり印象に残る。

委員

展覧会などのイベントは情報を得にくく、終わってから知ることも多い。様々な媒体で広報し、更にSNSで情報が拡がり、いろんな人が参加できるようになるのかなと思う。

委員

全員を満足させるのは難しいため、ターゲットを明確にすることが大事。世代を超えてというより、若い人だけ、お年寄りだけとして絞るのも面白い。これまで全く交わっていないコンテンツをミックスすることで新しい層を獲得できるかもしれない。高岡は伝統芸能が生き残っているのがよい。それを現代の新しいものとどう交わせるのが大事になってくる。

委員

芸術・文化の対象となるコンテンツの幅は広い。多様化と人口減少の中で、それぞれの規模が小さくなることを前提に、やれることを考えないといけない。

情報の発信は大事ではあるが、タイムリーに継続的に発信しないと広がらず、SNSの運営というのは非常に大変。深い知識を持つ人も大事だが、幅広く見てキュレーションする人材が大事ではないか。

また、今一度ハード面、施設をどうするのか考えないといけない。今後、財源が限られる中、施設は統合していかざるを得ない。これまでは専門的な施設が存在したかもしれないが、この後は異なるジャンルを越境させて統合し、量を減らしていくことが必要になるのかな

と思う。例えば、他の自治体では図書館、美術館を一緒にしている事例がある。

委員

インターネットで作品の制作過程が見たいなど新しい取組みを求める声を聞くが、それを実現・発信する知識がない。そういった知識がない部分に関して指導してほしい。

委員

市民会館が閉館した状況ではあるが、大規模文化ホールに関しては、アンケートを見てどう感じたか

委員

若い人は意外と現実的で、施設の集約・統合を望む人が多い。ネット社会になっており、その中で幅広く自分の関心に近いものを楽しむことができるので、大きな施設は必要ないのではないか。高岡にないといけないということはなく、行きたいと思えば東京でもどこでも行っている。そういう点で、無理に負担をしてまで、大規模な費用のかかるホールはいらないというのが、やはり現実的な話だと見える。

委員

文化施設を増やすべきという回答が少ないアンケート結果であり、これを見ると、市民の皆さんは意外と現実的に捉えていると感じた。

今はインターネットの社会なので、Vtuber などそういった形でも地域や文化の魅力は発信できるのではないか。

委員

練習などの活動において、高岡の施設は利用料金や制約の多さから使いにくく、呉羽の施設を利用しているという話を聞くことがある。また、大きな会場となると県が運営する高岡文化ホールしかない。

委員

統廃合で使われなくなった校舎を文化施設として活用するという案はいかがか。

事務局

学校については案件ごとに地域の方と相談をしながら民間活用を視野に入れて検討している状況である。

委員

市民会館閉館後、市内には大きな会場が高岡文化ホールしかなく寂しい。文化ホールを使用する際、ほかの団体と予定が重なった場合は抽選をしなければいけない。空きがあるところを無理やり使わせてもらう場合もある状況。小学校の体育館はスポーツ団体が先に押さえてしまっており、使用できないこともある。

委員

今でも高岡には 700 人、400 人のホールはある。記念大会などの大きな公演をする場合は希望としては 1,000 人規模のホールがあるとよい。しかし現在、テクノドームの場所に多目的の施設が県で検討されており、この施設がそのようなニーズ受け止めてくれるのであれば新たに市民会館を建設する必要はないかもしれない。アンケートの結果からも分かる通り、多くの施設はいらないが、取捨選択が大切だ。